

第130回日商簿記検定試験 模範解答

2 級

商業簿記

第1問(20点)

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	満期保有目的債券 有価証券利息	96,050,000 600,000	当座預金	96,650,000
2	不渡手形	705,000	受取手形 現金	700,000 5,000
3	減価償却費	297,000	車両減価償却累計額	297,000
4	当座預金 創立費	200,000,000 400,000	資本金 資本準備金 現金	100,000,000 100,000,000 400,000
5	試用販売掛金	45,000	試用仮売上	45,000

仕訳1組につき4点 合計20点

(配点は、当学院の予想です)

第 2 問(20 点)

仕 訳 日 計 表

平成 23 年 9 月 1 日

No. 901

借 方	元 丁	勘 定 科 目	貸 方
268,000	001	現 金	268,000
290,000		当 座 預 金	282,000
100,000		受 取 手 形	
585,000		売 掛 金	339,000
80,000		未 収 金	40,000
25,000		仮 払 金	25,000
		売買目的有価証券	77,000
200,000		備 品	
119,000	302	買 掛 金	352,000
50,000		借 入 金	250,000
33,000		売 上	585,000
		受 取 手 数 料	34,000
352,000		仕 入	25,000
84,000		支 払 家 賃	
21,000		旅 費 交 通 費	
65,000		広 告 宣 伝 費	
		有 価 証 券 売 却 益	3,000
8,000		(売 上 割 引)	
2,280,000			2,280,000

総 勘 定 元 帳

現 金 No. 001

買 掛 金 No. 302

平 成 × 年	摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 / 貸	残 高
9 1	前月繰越	✓	514,000		借	514,000
"	仕訳日計表	901	268,000		"	782,000
"	仕訳日計表	901		268,000	"	514,000

平 成 × 年	摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 / 貸	残 高
9 1	前月繰越	✓		223,000	貸	223,000
"	仕訳日計表	901		352,000	"	575,000
"	仕訳日計表	901	119,000		"	456,000

得 意 先 元 帳

磐 田 商 店 得 1

清 水 商 店 得 2

平 成 × 年	摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 / 貸	残 高
9 1	前月繰越	✓	398,000		借	398,000
"	売上伝票	503	223,000		"	621,000
"	入金伝票	103		76,000	"	545,000
"	振替伝票	306		50,000	"	495,000

平 成 × 年	摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 / 貸	残 高
9 1	前月繰越	✓	455,000		借	455,000
"	売上伝票	502	178,000		"	633,000
"	売上伝票	504		33,000	"	600,000
"	振替伝票	308		100,000	"	500,000

□ 1 つにつき 2 点 合計 20 点
(配点は、当学院の予想です)

第3問(20点)

損 益 計 算 書

平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

費 用	金 額	収 益	金 額
期首商品棚卸高	(<input type="text" value="44,750"/>)	売 上 高	1,408,800
当期商品仕入高	(1,230,900)	期末商品棚卸高	(<input type="text" value="61,250"/>)
貸倒引当金繰入	(<input type="text" value="1,430"/>)	受 取 家 賃	(<input type="text" value="17,400"/>)
減価償却費	(<input type="text" value="19,464"/>)		
営 業 費	(108,696)		
支 払 利 息	(3,000)		
手形売却損	(1,210)		
当期純(利益)	(<input type="text" value="78,000"/>)		
	(1,487,450)		(1,487,450)

貸 借 対 照 表

平成 23 年 3 月 31 日

資 産	金 額	負債・純資産	金 額
現金預金	(<input type="text" value="116,230"/>)	支 払 手 形	(<input type="text" value="61,100"/>)
受取手形	(33,200)	買 掛 金	(32,000)
売 掛 金	(24,800)	(未 払) 費 用	(<input type="text" value="3,246"/>)
貸倒引当金	(1,740) (<input type="text" value="56,260"/>)	(前 受) 収 益	(14,500)
商 品	(<input type="text" value="61,250"/>)	長 期 借 入 金	60,000
土 地	230,000	資 本 金	400,000
建 物	(250,000)	利 益 準 備 金	21,000
減価償却累計額	(81,000) (169,000)	繰越利益剰余金	(82,750)
備 品	(60,000)		
減価償却累計額	(18,144) (41,856)		
	(674,596)		(674,596)

1つにつき2点 合計20点
(配点は、当学院の予想です)

【2 級解説】

第 1 問

1. 利払日以外の日には債券を購入したときは、前利払日の翌日から売買日当日までの端数利息を売主に支払うこととなる。端数利息は日割り計算を行い「有価証券利息」勘定のマイナスとして処理する。

$$\text{満期保有目的債券} : \text{¥}100,000,000 \times \frac{\text{¥}95.75}{\text{¥}100} + \text{¥}300,000 = \text{¥}96,050,000$$

$$\text{有価証券利息} : \text{¥}100,000,000 \times 2.92\% \times \frac{75\text{日}}{365\text{日}} = \text{¥}600,000$$

2. 所有する手形が不渡りとなったときは「受取手形」勘定から「不渡手形」勘定へ振り替える。この不渡手形の償還請求にかかった書類作成費や利息等の諸費用はすべて不渡手形勘定に含める。

3. 車両は 2 台である点に注意する。

$$\begin{aligned} \text{減価償却費} &: (\text{¥}6,000,000 - \text{¥}600,000) \times \frac{9,000\text{km}}{300,000\text{km}} + (\text{¥}6,000,000 - \text{¥}600,000) \times \frac{7,500\text{km}}{300,000\text{km}} \\ &= \text{¥}297,000 \end{aligned}$$

4. 株式発行時においては払込金額の 1/2 以上を資本金に組み入れなければならない。よって、最低限度額は払込金額の 1/2 となる。また、会社設立時における株式発行諸費用は「創立費」勘定で処理する。

$$\text{資本金組入額} : 2,500 \text{ 株} \times \text{¥}80,000 \times 1/2 = \text{¥}100,000,000$$

5. 試用販売を対照勘定法により処理する場合は、商品の試送時に対照勘定により備忘仕訳を行う。その後、試送先の顧客から買取の意思表示があった時点で売上を計上するとともに、対照勘定を取り消す処理を行う。

第 2 問

総勘定元帳への転記

総勘定元帳は、仕訳日計表から合計転記されるので、総勘定元帳の摘要欄には転記元の「仕訳日計表」と記入し、仕丁欄に仕訳日計表のページ数を記入する。

得意先元帳への転記

得意先元帳は、各伝票から個別に転記が行われるので、得意先元帳の摘要欄には転記元の「伝票名」を記入し、仕丁欄に伝票番号を記入する。

入金伝票

(現 金)	268,000	(受 取 手 数 料)	34,000
		(仮 払 金)	4,000
		(売 掛 金 (磐 田))	76,000
		(当 座 預 金)	82,000
		(売 掛 金 (新 潟))	72,000

出金伝票

(仮 払 金)	25,000	(現 金)	268,000
(広 告 宣 伝 費)	65,000		
(借 入 金)	50,000		
(買 掛 金 (浦 和))	44,000		
(支 払 家 賃)	84,000		

仕入伝票

(仕 入)	352,000	(買掛金(鹿島))	101,000
		(買掛金(浦和))	166,000
		(買掛金(市川))	85,000
(買掛金(浦和))	25,000	(仕 入)	25,000

売上伝票

(売掛金(新潟))	184,000	(売 上)	585,000
(売掛金(清水))	178,000		
(売掛金(磐田))	223,000		
(売 上)	33,000	(売掛金(清水))	33,000

振替伝票

(当座預金)	250,000	(借入金)	250,000
(旅費交通費)	21,000	(仮払金)	21,000
(未収金)	80,000	(売買目的有価証券)	77,000
		(有価証券売却益)	3,000
(売上割引)	8,000	(売掛金(新潟))	8,000
(当座預金)	40,000	(未収金)	40,000
(買掛金(鹿島))	50,000	(売掛金(磐田))	50,000
(備品)	200,000	(当座預金)	200,000
(受取手形)	100,000	(売掛金(清水))	100,000

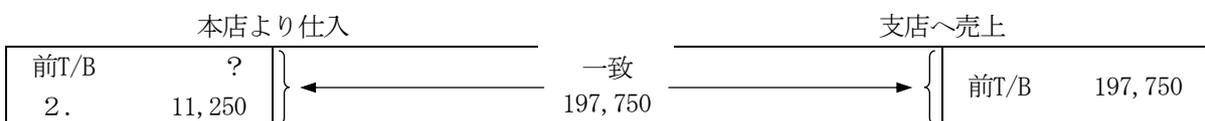
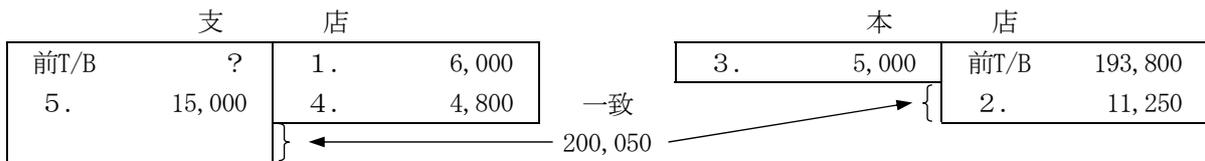
第3問

本支店合併財務諸表の作成は、①未達事項の整理、②決算整理、③合併整理の順で行うこと。

① 未達事項の整理

本店側または支店側において、未達により未処理となっているものを処理する。また、未達整理後は「本店」勘定と「支店」勘定、「本店より仕入」勘定と「支店へ売上」勘定の一致を確認すること。

1. (現金預金)	6,000	(支店)	6,000
2. (本店より仕入)	11,250	(本店)	11,250
3. (本店)	5,000	(売掛金)	5,000
4. (営業費)	4,800	(支店)	4,800
5. (支店)	15,000	(支払手形)	15,000



※決算整理前 T/B 不明箇所の推定

支店勘定：上記支店勘定と本店勘定の一致額との差額より ¥195,850

本店より仕入勘定：上記本店より仕入勘定と支店へ売上勘定の一致額との差額より ¥186,500

繰延内部利益：貸借合計差額より ¥1,750

② 期末修正事項

1. 売上原価の算定について

財務諸表作成問題では、損益計算書には期首商品、当期仕入、期末商品をそれぞれ記載するため、帳簿上で売上原価を算定する以下の仕訳は、必ずしも行わなくてよい。

(仕入)	46,500 ^{*1}	(繰越商品)	46,500
(繰越商品)	66,250 ^{*2}	(仕入)	66,250

*1 期首商品棚卸高：本店 ¥34,500 + 支店 ¥12,000 = ¥46,500

*2 期末商品棚卸高：本店 ¥36,500 + 支店 ¥18,500 + 未達 ¥11,250 = ¥66,250

2. 貸倒引当金の設定について

(貸倒引当金繰入)	1,430 [*]	(貸倒引当金)	1,430
-----------	--------------------	---------	-------

* 受取手形：本店 ¥23,000 + 支店 ¥10,200 = ¥33,200

売掛金：本店 ¥22,000 + 支店 (¥7,800 - ¥5,000) = ¥24,800

(¥33,200 + ¥24,800) × 3% - (本店 ¥200 + 支店 ¥110) = ¥1,430

3. 減価償却について

(減価償却費)	19,464	(建物減価償却累計額)	9,000 ^{*1}
		(備品減価償却累計額)	10,464 ^{*2}

*1 本店：(¥210,000 - ¥21,000) × $\frac{1\text{年}}{25\text{年}}$ = ¥7,560支店：(¥40,000 - ¥4,000) × $\frac{1\text{年}}{25\text{年}}$ = ¥1,440

*2 本店：(¥40,000 - ¥5,120) × 20% = ¥6,976

支店：(¥20,000 - ¥2,560) × 20% = ¥3,488

4. 借入金利息について

(支払利息)	1,250 [*]	(未払利息)	1,250
--------	--------------------	--------	-------

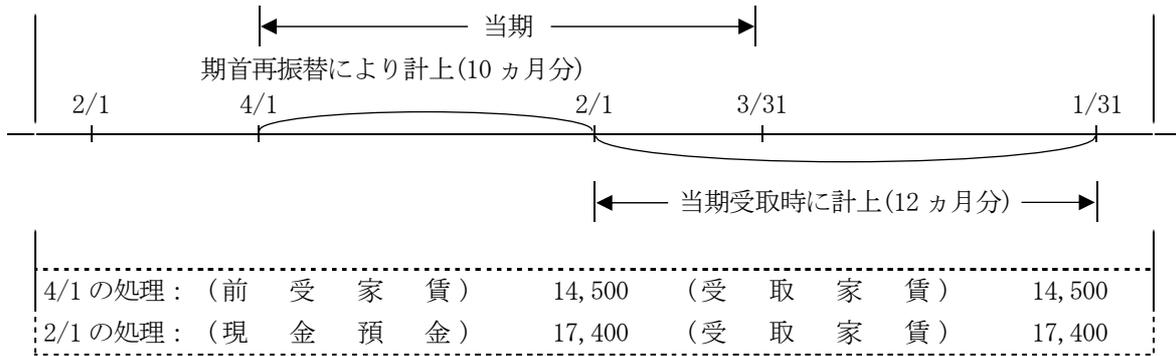
* ¥60,000 × 5% × $\frac{5\text{ヵ月}}{12\text{ヵ月}}$ = ¥1,250

5. 受取家賃について

(受取家賃)	14,500 [*]	(前受家賃)	14,500
--------	---------------------	--------	--------

* 前期の決算で 10 ヶ月分が繰延べられているため、決算整理前試算表の受取家賃 ¥31,900 (= ¥17,600 + ¥14,300) は期首再振替による 10 ヶ月分 (4/1~1/31) と期中受取 12 ヶ月 (2/1~翌 1/31) の合計 22 ヶ月分である。

$$¥31,900 \times \frac{10\text{ヵ月}}{22\text{ヵ月}} = ¥14,500 \text{ (次期 4/1~1/31 までの 10 ヶ月分を繰延べる)}$$



6. 営業費の見越について

（ 営 業 費 ）	1,996 *	（ 未 払 営 業 費 ）	1,996
-----------	---------	---------------	-------

* 本店¥1,550+支店¥446=¥1,996

③ 合併整理

決算整理後の本店および支店の各科目金額を単純合算した後、以下の合併整理を行う。いずれも合併財務諸表には表示しないものを消去するための処理であるため、解答上は必ずしも仕訳の必要はない。

1. 照合勘定の相殺消去

（ 本 店 ）	200,050	（ 支 店 ）	200,050
---------	---------	---------	---------

2. 内部取引の相殺消去

（ 支 店 へ 売 上 ）	197,750	（ 本 店 より 仕 入 ）	197,750
---------------	---------	----------------	---------

3. 内部利益の消去

(1) 期首商品棚卸高

支店の期首商品に含まれる内部利益：繰延内部利益勘定より ¥1,750 又は $¥8,750 \times \frac{0.25}{1.25} = ¥1,750$

(P/L) 期首商品棚卸高：¥46,500 - ¥1,750 = ¥44,750

(2) 期末商品帳簿棚卸高

支店の期末商品に含まれる内部利益：(¥13,750+未達¥11,250) $\times \frac{0.25}{1.25} = ¥5,000$

(P/L) 期末商品帳簿棚卸高：¥66,250 - ¥5,000 = ¥61,250

第 4 問

(1) 動力部門費の各工程部門費への配賦

動力部門費：50,000 円 $\times 60\% = 30,000$ 円 → 製造間接費-第 1 工程へ
 50,000 円 $\times 40\% = 20,000$ 円 → 製造間接費-第 2 工程へ

(2) 各工程部門費の仕掛品への予定配賦

製造間接費-第 1 工程：500 円/時間 $\times 200$ 時間 = 100,000 円
 製造間接費-第 2 工程：300 円/時間 $\times 250$ 時間 = 75,000 円

(3) 各工程部門費の配賦差異

製造間接費-第 1 工程：予定 100,000 円 - 実際(75,000 円 + 30,000 円) = 5,000 円(不利(借方)差異)
 製造間接費-第 2 工程：予定 75,000 円 - 実際(58,000 円 + 20,000 円) = 3,000 円(不利(借方)差異)

<仕掛品-第 1 工程>

仕掛品-第 1 工程	
投入	完成
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 60,000 円 50,000 円 100,000 円 </div>	2,000 個
	210,000 円

第 1 工程完了品は続いて第 2 工程に投入されるため、第 1 工程完了品原価 210,000 円を第 2 工程に振り替える。
 第 2 工程では第 1 工程完了品を一種の材料として考えて計算を行えばよい。

<仕掛品-第 2 工程>

前工程費	
投入	完成
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 210,000 円 </div>	1,800 個
	189,000 円 (差額)
	月末 200 個
	21,000 円

月末仕掛品原価

$$210,000 \text{ 円} \times \frac{200 \text{ 個}}{1,800 \text{ 個} + 200 \text{ 個}} = 21,000 \text{ 円}$$

加工費 (数量は完成品換算量)	
月初+投入	完成
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 115,000 円 + 75,000 円 </div>	1,800 個
	180,000 円 (差額)
	月末 100 個
	10,000 円

月末仕掛品原価

$$(115,000 \text{ 円} + 75,000 \text{ 円}) \times \frac{100 \text{ 個}}{1,800 \text{ 個} + 100 \text{ 個}} = 10,000 \text{ 円}$$

第 2 工程完了品原価 : 189,000 円 + 180,000 円 = 369,000 円

第 2 工程月末有高 : 21,000 円 + 10,000 円 = 31,000 円

第 5 問

材料 B は、工程を通じて平均的に投入されているため、加工費と同じように完成品換算量により按分する。

完成品原価の計算(先入先出法)

材料 A	
月初 100 個 491,000 円	完成(1,900 個) 100 個
	9,500,000 円 (差額)
投入 2,000 個 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">10,010,000 円</div>	1,800 個
	月末 200 個
	1,001,000 円

月末仕掛品原価

$$10,010,000 \text{ 円} \times \frac{200 \text{ 個}}{1,800 \text{ 個} + 200 \text{ 個}} = 1,001,000 \text{ 円}$$

加工費 (数量は完成品換算量)	
月初 50 個 (注 2) 141,500 円	完成(1,900 個) 50 個
	5,728,500 円 (差額)
投入 2,010 個 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">(注 1) 6,070,200 円</div>	1,850 個
	月末 160 個
	483,200 円

月末仕掛品原価

$$6,070,200 \text{ 円} \times \frac{160 \text{ 個}}{1,850 \text{ 個} + 160 \text{ 個}} = \text{¥}483,200$$

(注 1) 20,120,300 円 - (材料 A 10,010,000 円 + 材料 B 4,040,100 円) = 6,070,200 円

(注 2) 6,211,700 円 - 6,070,200 円 = 141,500 円

(注 3) 742,500 円 - (材料 A 491,000 円 + 加工費 141,500 円) = 110,000 円

材 料 B (数量は完成品換算量)

月初 50個 (注3) 110,000円	完成(1,900個) 50個	3,828,500円 (差額)
投入 2,010個	1,850個	
4,040,100円	月末 160個	321,600円

月末仕掛品原価

$$4,040,100円 \times \frac{160個}{1,850個 + 160個} = 321,600円$$

当月完成品原価 : 9,500,000円 + 5,728,500円 + 3,828,500円 = 19,057,000円

売上原価の計算(平均法)

製 品		
月初+当月 1,143,000円 +	販売 1,960個	19,600,000円 (差額)
19,057,000円	月末 60個	600,000円

月末製品 : (1,143,000円 + 19,057,000円)

$$\times \frac{60個}{1,960個 + 60個} = 600,000円$$